

大和川周辺住民の望む将来のまちづくりパターンの分類

大阪大学工学部 正 員 毛利正光
 大阪大学工学部 学生員 恩地典雄
 ○ 大阪大学工学部 学生員 原口和靖

1. はじめに

まちづくりを行っていく上で事前に居住環境について把握し、その影響を十分に考慮しなくてはならない。そのために直接影響を受ける住民によって居住環境を評価してもらう必要があると考えられる。そこで本研究では、住民が居住環境を評価するときにはそれぞれなんらかの評価基準を持っていると考え、この基準として住民の将来指向に注目し、この将来指向ごとに評価の重みづけを考えていく。ここでは、そのための第一段階として河川の問題や史跡整備の問題などの地区の特性をもつ大和川周辺を例にとってそれぞれの問題がどう考えられているかとともに、この地区の住民の将来指向を構成施設とイメージから把握していくつかに分類していく。

2. 住民意識調査の概要

住民の将来のまちに対する意識について直接住民にアンケート調査を行うことによって明らかにしていくこととした。調査の規模はあらゆる住民の意識を全体として、また1つ1つの地区においても十分でかつ適当量取り出せるよう考慮し、1地区当り25世帯、10地区とした。また回答者が偏らないよう1世帯には2票ずつとし、全体では500票となった。対象地区として大和川の両岸1km以内から、成立年代・交通条件など歴史的・地理的条件の多様な地区を10地区選び出した。調査方法は、留置式の意識調査とし、配布回収は昭和62年10月22日(水)～30日(金)に行った。その結果、回収率は83.2%(416票)であった。

3. まちの構成施設の分類

まず、住民が将来望むまちに必要と考える施設から将来望んでいるまちのパターンを明らかにしていく。そのために住民の意識調査の結果を数量化Ⅲ類分析でⅦ軸(累積寄与率64%)まで求め、必要と考える施設をいくつかのグループに分類する。その際、どのパターンにも含まれると考えられる施設が原点付近にくることを考慮し、放射状にグルーピングをした。(図-1) この結果、Ⅳ軸の負方向に「森林区域」、「田園区域」など自然関係を中心に1つのグループを形成できると考えられる。またⅤ軸の負方向にも「高速道路の出入口」、「繁華街」など近代都市施設を中心としたグループを形成できると考えられる。また、第Ⅲ象限の施設を望む人が多いため軸上の2つのグループの中間的なものとして「鉄道の駅」、「スーパー」など日常関係施設を中心とするグループを形成した。第Ⅰ象限では「文化会館」、「テニスコート」、「障害者用施設」など文化・福祉・スポーツ施設をひとまとまりとするグループを形成した。最後に第Ⅳ象限の施設については望む人が少数だったためあえて1つのグループとはしなかった。以上、住民の望むまちとしてこれら4つの施設グループからなるまちを考えることができる。

4. まちのイメージの分類

住民の望むまちのイメージについて合うと考える形容詞からもまちのパターンを考えていくことにした。これについても住民意識調査の結果を数量化Ⅲ類分析でⅦ軸(累積寄与率54%)まで求め、同じように放射

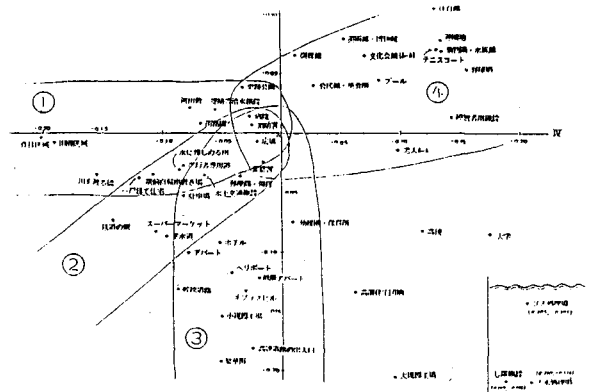


図-1 都市施設の分類

Masamitsu MŪRI, Norio ONCHI, Kazuyasu HARAGUCHI

状にグルーピングした。(図-2) この結果、第Ⅰ象限では「ごちゃごちゃした」、「にぎやかな」などのイメージを1つのグループとし、第Ⅱ象限では「落ち着いた」、「田舎っぽい」などのイメージを1つのグループとした。また、Ⅴ軸負方向から第Ⅳ象限にかけての「整然とした」、「都会的な」などのイメージを1つのグループとした。また、このグループとは異なると考えられるⅣ軸近くの「男性的な」、「情熱的な」などを1つのグループとした。以上、住民の望むまちとしてこれらの4つのイメージグループからなるまちが考えられる

5. 将来の望むまちの分類

以上の結果をふまえ、施設とイメージをまとめて数量化Ⅲ類分析をⅤ軸(累積寄与率51%)まで行いお互いの関係を求めた。(図-3) これによると施設の①というグループはイメージの①というグループとよく重なっており、1つのまちを形成するものと考えられる。同じように②と③についても1つのまちと考えることができる。④については図-3(a)を見るかぎり重なっているとはいいがたいが図-3(b)など他の軸に関してみると重なっていることがわかり、これも1つのグループとすることができると考えられる。以上の4つのまちのグループについて施設、イメージをもとに例として「A. 緑が豊かで静かなまち」、「B. 日常生活に便利なまち」、「C. 交通施設の整備された近代都市」、「D. 文化・福祉・スポーツ施設の整備されたまち」という4つのまちのパターンについて絵を描いてみた。(図-4)

6. おわりに

今回抽出された住民の将来望むまちのパターンをもとに2回目の調査を行った。その結果を使い、実際に住民がどの様にこの4パターンについて選んで行くかを把握し、最終的には社会統計指標などを取り入れることによってより汎用的なものとしていく必要があると考える。

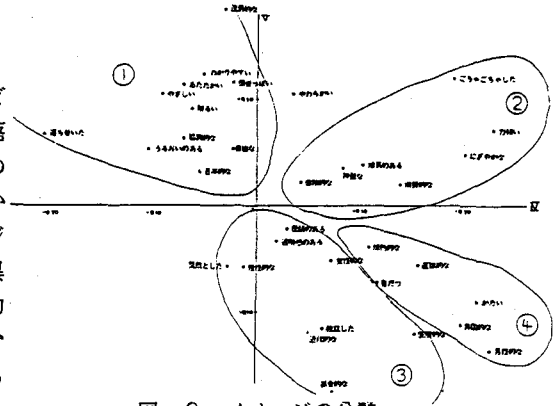


図-2 イメージの分類

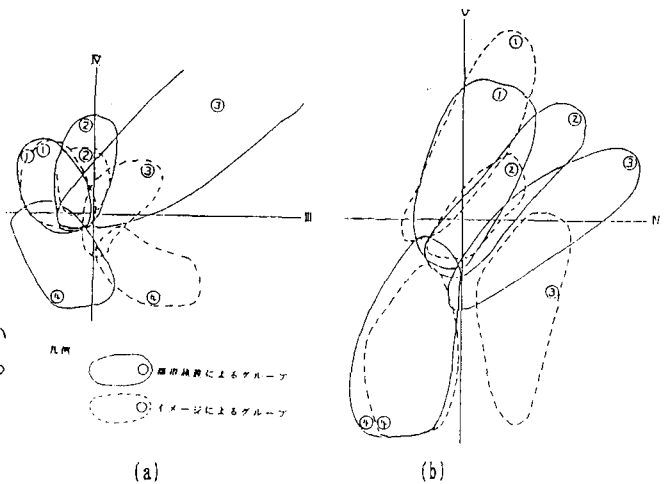


図-3 都市施設グループとイメージグループの関係



図-4 将来のまちのパターン